

北海道の魅力を
取材して原稿に。

ライター・編集
能登 亨樹

【職務経歴書&掲載見本ダイジェスト】

※読める文字サイズの見本PDFは別途ご用意しています

2025.6.10

●略歴

のとなおき／1972（昭和47）年生まれ、北海道釧路市出身。
建設業界紙の記者を経て、1999（平成11）年から札幌の広告
代理店（株）朝日サービスの制作部門に所属。取材記事や広
告の原稿作成を主軸に、企画・編集から販促・ウェブ運用、
総合的なディレクションまで幅広く担当。2016（平成28）年
9月からフリーのライター・編集者に。雑誌やPR誌に北海道
のさまざまな情報を発信するほか、公共系の情報誌やウェブ
サイト向けのインタビューも数多く担当している。

●連絡先

TEL 090-3116-2441
dockisha16@gmail.com

〒065-0025

北海道札幌市東区北25条東15丁目2-1

ホクエイテクノビル305号（自宅兼事務所）

[ウェブ] <https://dockisha.com>

[メール2] noto@dockisha.com

[FAX] 011-742-6246

note
北の酒クローリング



Bluesky (SNS)



facebook (SNS)



公式website



掲載媒体 (一部)

- 【書 籍】 『ほっかいどう地酒ラベルグラフィティー』 亜璃西社刊／編著者
『25-26 北海道キャンプ場ガイド』 亜璃西社刊
- 【P R 誌】 『WAVE TIMES+ (ウェーブタイムスプラス) 』 (札幌市民交流プラザ広報誌)
『JCB THE PREMIUM』 (クレジットカード会員向けの月刊情報誌) ほか
- 【ムック】 『札幌 小樽 完全版』 『北海道の絶景』 『大人の1泊2日旅』
『今、泊まりたい1棟貸しの宿』 (以上、JTBのムック) ほか
- 【雑 誌】 『るるぶ北海道』 『るるぶ札幌・小樽』 『月刊 ソフトテニス・マガジン』
『一個人』 『散歩の達人』 ほか
- 【ウェブ】 『サッカーキング.jp』 (大会レポート) 『ワンダー』 (不動産ポータルサイト)
『スマイルゼミ』 (高校生向け通信教育_合格者インタビュー)

お取引先企業 (敬称略)

- 【出版社】 亜璃西社、JTBパブリッシング、交通新聞社、KADOKAWA、
KKベストセラーズ、リクルート、ベースボール・マガジン社 ほか
- 【制作会社・広告代理店】 イマジカデジタルスケープ、A U R A S、朝日サービス ほか

初の著書が出ました！

2024.5.1 刊行【好評既刊】

『ほっかいどう地酒ラベル グラフィティー』

●亜璃西社刊／168頁／フルカラー／定価：本体3,000円

◎明治時代の北海道には、260軒ほどの酒蔵がありました。
第一部では、すでに廃業してしまった道内各地の酒蔵の地酒ラベルを
多数収録。150年におよぶ北海道の開拓・発展の歴史を酒造業の歩み
とともに振り返ります。貴重な記録であると同時に、眺めて楽しめる
美しいアート本に仕上がっています。

◎2024年5月現在、北海道では16の酒蔵が操業しています。
第二部では、16蔵の歴史と現在を、現地取材をベースに紹介。
酒ラベルの変遷で歩みをたどります。酒ツーリズムのガイドにも。

◎このほか、明治から続く150余年の酒造りの歴史を概観した「北海
道の酒造史」、北海道米の品種改良の歴史をひもとく「北海道の酒
米」といったコラムにも、ご注目を。

●道内主要書店、Amazon等で好評販売中です



能登亨樹[✦]〔編著〕
和田由美[✦]〔監修〕

ほっかいどう地酒ラベル
グラフィティー

Sake Labels Tell The Story of Hokkaido in The Past

美しいラベルと銘酒150余年の歩み

発酵学者・小泉武夫氏推薦！

定価：本体3,000円＋税
亜璃西社

今宵、ラベルの美しさに酔い、
銘酒の旨さに酔い痴れませんか？

幻の蔵元から現役16蔵まで、ビンテージ&オールドラベルを中心に
約500枚を一挙掲載。レトロでアートなラベルで知る道内酒造の軌跡。

『ほっかいどう地酒ラベルグラフィティー』

- 亜璃西社
- 2024.5.1発行／A4判／168頁／フルカラー



貴重な地酒ラベル500点を収録
酒づくりでたどる北の産業史

画像のスキャンや撮影から、ページ構成、取材・執筆・校正まで
約1年がかりで仕上げました
現役で酒づくりに取り組む道内16蔵も詳しく紹介しています

『北海道時刻表』 地酒ラベルでめぐる 北海道の酒蔵紀行

- 交通新聞社 ●連載全6回
- 2024.9～2025.2／A5判／定価500円～（税別）

地酒ラベルでめぐる 北海道の酒蔵紀行

ライター／能登亨樹

『ほっかいどう地酒ラベルグラフィティ』（亜細亜社刊）の著者であるライターの能登亨樹が、北海道内で操業中の日本酒の酒蔵をご案内。各蔵の地酒ラベルとともに、歴史や見どころを紹介します。

第6回 福司酒造（釧路市）
道東の港町・釧路の老舗造り酒屋。
蔵開き限定酒「たれ口酒」に注目。



敷島商會時代の定章ラベル。酒名を破魔矢や小判といった縁起物で囲む図案は、現在も定章酒に受け継がれている



福司酒造株式会社（釧路市住吉2丁目13-23／TEL 0154-41-3100）

大正8（1919）年創業の福司酒造は、道東の太平洋岸の港町・釧路市に残る唯一の造り酒屋。当初は酒類や清涼飲料の卸売りを手がける合名会社敷島商會として創業し、4年後に製造免許を取得して日本酒の醸造をスタートしました。代表銘柄の「福司」を冠した現在の社名に変更したのは、平成3（1991）年のことです。

実は釧路は私の生まれ故郷でもありまして、現在も帰省するたびに立ち寄って、お酒を仕入れています。生まれ育った町に昔から続く酒蔵がある

というのは、何だか誇らしい気分になるものです。

新酒の完成を告げる風物詩になっているのが、例年4月に開催される蔵開きイベント「蔵開放デー」。年に一度、この日しか手に入らないしぼりたての生原酒「たれ口酒」が数量限定で発売されます。

私も昨年、購入してみました。これがまたしみじみとうまいお酒で大満足でした。

今年の詳しい開催日時などの情報は、同社のサイトでご確認を。小高い丘の上にある蔵までは、JR釧路駅から車で約10分の距離感です。

ほっかいどう地酒ラベルグラフィティー

編著 能登亨樹／監修 和田由美 B5判変型／168頁（オールカラー）
定価 3,300円（本体3,000円＋税10%）

明治期のビンテージラベルから現役16蔵の最新ラベルまで、約500枚の地酒ラベルを収録。ラベルの変遷を通して、北海道の酒造史をたどる一冊です。

道内各地の書店や
ネット通販サイトで
発売中！

地酒ラベルでめぐる 北海道の酒蔵紀行

ライター／能登亨樹

『ほっかいどう地酒ラベルグラフィティ』（亜細亜社刊）の著者であるライターの能登亨樹が、北海道内で操業中の日本酒の酒蔵をご案内。各蔵の地酒ラベルとともに、歴史や見どころを紹介します。

第1回 日本清酒（札幌）
札幌の地酒として愛される「千歳鶴」。
明治5（1872）年創業の老舗酒蔵。



「千歳鶴」といえばこのラベル。ひげ文字の酒名を円形の帯と二羽の鶴が囲むデザインは現在も定章酒のラベルとして使用されている



日本清酒株式会社（札幌市中央区南3条東5丁目2／TEL 011-221-7570）

札幌で本格的な酒造りが始まったのは明治初期の開拓期。豊平川の扇状地の上に拓かれた札幌は良質な伏流水に恵まれ、市街地には次々と酒蔵が立ち上がりました。

石川県能登出身の柴田興次右衛門は明治5（1872）年、創成川のほとりに柴田酒造店を開業。どぶろくなどの濁酒が開拓使の役人たちから好評を得ると、続いて清酒の醸造にも着手し、これが後の日本清酒の設立につながっていきます。

現在、道内では16の日本酒の酒蔵が操業していますが、札幌にあるのは日本清酒のみ。すず

きの飲食店を取材していると「酒はやっぱり『千歳鶴』だね」という店主さんとたくさん出会いますが、唯一の「札幌の地酒」として愛されつづけているんですね。

JR札幌駅から札幌市営地下鉄南北線大宮駅かすすきの駅で降りれば、本社工場に併設された「千歳鶴酒ミュージアム」までは徒歩圏内。ここでもしか購入できない銘酒が購入できます。

私のおすすめは、工場の裏手を流れる豊平川周辺の散策。北海道の酒造りの歴史に思いを馳せながら、広々とした河原を歩いてみるのも旅の思い出になりそうです。

ほっかいどう地酒ラベルグラフィティー

編著 能登亨樹／監修 和田由美 B5判変型／168頁（オールカラー）
定価 3,300円（本体3,000円＋税10%）

明治期のビンテージラベルから現役16蔵の最新ラベルまで、約500枚の地酒ラベルを収録。ラベルの変遷を通して、北海道の酒造史をたどる一冊です。

道内各地の書店や
ネット通販サイトで
発売中！

（著書のPRも兼ねて）
北海道内の酒蔵を連載で紹介

道内各地の酒蔵&地酒ラベルと
鉄道路線を絡めたコラムの原稿を担当

1964年6月9日第3種郵便物認可 2025年2月号 発行2025年1月20日（毎月1回20日発行）第66巻 第2号 通巻782号

交通新聞社の

北海道 時刻表

2025
2

JR・航空・
フェリー・バス
情報満載！

定価
（税込） **550円**

- 2025年3月15日（土）ダイヤ改正！
- 臨時列車情報
- 北海道新幹線時刻

HOKKAIDO LOVE!

みんなで乗れば、
未来が変わる。
考えよう、行動しよう、公共交通の未来。

イランカラブテ
「こんにちは」からはじめよう。

「DECMOのカメラ目線」

写真提供：福岡県在住 M.M 様

『JCB THE PREMIUM』

2025.3月号

- JTBPублиッシング
- 2025.3.20発行／A4判／120頁／JCBのプレミアム会員向け月刊会報誌／発行110万部



2019年「知床・道東編」から

年1回の北海道特集を担当



「小樽の春を歩く」をテーマに全13ページの特集を構成

2024年11月に撮影・取材→翌3.20付の4月号に掲載

テーマ提案から取材先のリサーチ、取材・原稿・校正まで一手に担当



『JCB THE PREMIUM』 2023.5月号

- JTBPブリッシング
- 2023.4.20発行／A4判／120頁／JCBのプレミアム会員向け月刊会報誌／発行110万部



2019年「知床・道東編」から
年1回の北海道特集を担当

「函館の歴史的建造物巡り」をテーマに全13ページの特集を構成
2023年1月に撮影・取材→4.20付の5月号に掲載
テーマ提案から取材先のリサーチ、取材・原稿・校正まで一手に担当

札幌市民交流プラザ 広報誌 『wave times+』 2023.6～2025.7

- 札幌市民交流プラザ
- 2023.6月号からリニューアル／季刊／A4判／22頁／発行1万部

ILHA FORMOSA
麗しき島、台湾を空族がdig!!!

**音楽を媒介に深掘りして
たどり着いた台湾の現在**

ILHA FORMOSA(イラフォルモサ)とは、ポルトガル語で「美しい島」という意味。16世紀の大航海時代に台湾島を訪れたポルトガル人がそう名付けたと伝えられています。

2022年8月、空族は遠征を含む7人体制で、約1か月かけて台湾各地を駆け回り、撮影を敢行。その模様を中心に14分25秒の映像インスタレーションとして構成したのが本作です。

日本を含むアジアを舞台に映画をつくり続けてきた空族の制作スタイルは、かなり独特。設立

メンバーの富田克也氏や相澤史之助氏はじめ、スタッフは長期にわたって何度も現地に入り、その地で暮らす人々と交流を深めながら、長編映画のシナリオを練り上げていきます。そして本編の撮影時には役者として登場するなど、現地の人々と一緒に映画づくりに取り組むという独自のアプローチを採用。空族ではこの長期にわたる準備期間を「先遣任務」、映画本編の撮影を「本戦」と位置付けています。

「その土地のことを知るために、最も手取り早いのが音楽です。スタッフにMr.鼓やMMM(スタジオ石)、Young-G(stillichimiya)という

メンバーの富田克也氏や相澤史之助氏はじめ、スタッフは長期にわたって何度も現地に入り、その地で暮らす人々と交流を深めながら、長編映画のシナリオを練り上げていきます。そして本編の撮影時には役者として登場するなど、現地の人々と一緒に映画づくりに取り組むという独自のアプローチを採用。空族ではこの長期にわたる準備期間を「先遣任務」、映画本編の撮影を「本戦」と位置付けています。

「その土地のことを知るために、最も手取り早いのが音楽です。スタッフにMr.鼓やMMM(スタジオ石)、Young-G(stillichimiya)という

西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト

空族 台湾先遣隊調査報告 ILHA FORMOSA

富田克也監督インタビュー

札幌市民交流プラザとさっぽろ地下街オーロラタウンを結ぶ西2丁目の地下歩道の4面スクリーンでは、これまでにアニメーションや自然・都市の風景などを扱う作品をはじめ、多様な映像作品を上映してきました。2023年4月からラインナップに加わった《ILHA FORMOSA》(イラフォルモサ)は、「音」が特徴的な作品です。制作は、映像制作集団・空族(くそく)。作品の舞台となる土地の伝統音楽や現地のミュージシャンに焦点を当てた空族は、制作スタッフにヒップホップの文化を伝えるなど、「音」が重要な要素となる作品をつくっています。台湾で暮らす人々のリアルな姿を鮮やかに切り取ったこの意欲作について、富田克也監督にその背景や制作プロセスを伺いました。

SCARTS TOPICS

札幌文化芸術交流センター SCARTS (はかり)

ヒップホップのグループがいるんですが、彼らはまるでDJがレコードをデジる(中音レコード)のスクリーンのように、現地の音楽シーンをどんどん掘り出して、あっという間に深いレイヤー(奥層)にまで到達してしまってますよ。

台北や台南、高雄などの西部の都市を皮切りに、中央山岳部の南投県、南部の屏東県、東部の台東県や花蓮県まで足を運び、地元のミュージシャンを招き歩きながら、音楽フェスや音楽祭といった催事の模様も収録。音楽を媒介に、台湾の現在をとらえることに成功しています。

**原住民の存在に着目して
歴史のレイヤーをたどる**

「高雄映画祭で知り合った現地のプロデューサーから『台湾を舞台に映画を撮らないか』と誘ってもらったのがきっかけです。その後、SCARTSからも声をかけていただいたので『それじゃあ、空族から見た台湾の姿を紹介する作品をつくろう』ということになりました。』

副題に「空族 台湾先遣隊調査報告」とある通り、本作は近い将来、空族が撮ろうとしている長編映画のフログラフにあたります。

「台湾島はちょうど九州ぐらいの面積で、標高3000m級の峰が269座もある険しい地形が特徴です。日本にあるのは21座ですから、いかに映しかがわかりますよね。撮影を続ける中で、

はるか昔に大陸から移住してきた本省人と、1947年前後に蒋介石と共に渡ってきた外省人という漢民族だけでなく、アミ族やルカイ族、パイワン族、セデック族といった原住民の存在を知り、興味を深めていくことになりました。』

漢族が中心の都市部から、険しい山岳地帯で暮らす原住民の文化圏へ、そこで受け継がれている風習を追いかけ、歴史のレイヤーを奥へ奥へとたどっていくことで、これまであまり見なかった台湾の現在が立ち上がってきました。

**つい立ち止まりたくなる
気になるシーンを次々と**

西2丁目地下歩道は通勤でもあり、市民の皆さんが日常的に使う場所でもあります。

「僕も下見を兼ねて実際に歩いてみたんですが、4面スクリーンの前を通り過ぎる時間はだいたい十数秒。皆さんが足早に走り来る中で、いろんな場面を少しずつ目にしながら、そのうちにどうしても気になるシーンが出てきて、ついいつかの日か、立ち止まって見てみたくなる——そんな作品にしようというのが僕の抱いていた。編集はかなり大変でしたが、ありったけの情報を詰め込んでいます」

各シーンの右下にはカデコンを模したアイコンで、撮影日時、使用したカメラの機種、シーンタイトル、ひとコマを表示。要所にテキストによる解説も挿入し、さらには画面に映る二次元コードをスマホで読み込むと、関連する動画やサイトにジャンプするという工夫まで施されています。つまりはスクリーンの外まで周辺情報があるようにしています。

空族は映画の制作のみならず、配給や上映までを一貫して自分たちで手掛けることにこだわり、これまで作品のソフト化や配給をさせてきたことがない。この作品は空族としては初めての公共空間での常設上映となります。

「台湾は親目のイメージが強い地域。実際にどこに行っても親切に迎えてもらって、本当にありがたいことだなと思っています。そんな台湾で暮らす、さまざまな人たちの魅力が詰まった映像作品になっていると思いますので、ぜひご覧になってください」

西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト

札幌市民交流プラザとさっぽろ地下街オーロラタウンを結ぶ西2丁目地下歩道の4面スクリーンでは、これまでにアニメーションや自然・都市の風景などを扱う作品をはじめ、多様な映像作品を上映してきました。2023年4月からラインナップに加わった《ILHA FORMOSA》(イラフォルモサ)は、「音」が特徴的な作品です。制作は、映像制作集団・空族(くそく)。作品の舞台となる土地の伝統音楽や現地のミュージシャンに焦点を当てた空族は、制作スタッフにヒップホップの文化を伝えるなど、「音」が重要な要素となる作品をつくっています。台湾で暮らす人々のリアルな姿を鮮やかに切り取ったこの意欲作について、富田克也監督にその背景や制作プロセスを伺いました。

上映スケジュールはSCARTSウェブサイトをご覧ください。

wave times+

札幌市民交流プラザ イベント情報誌
「ウェーブタイムスプラス」

2025 JUN-JUL 6-7

札幌市民交流プラザ
2025年度
主催／共催公演ピックアップ

hitaru TOPICS
hitaru 80th
**Sound of Japan Fes
A BRAND NEW MINYO**
日本の民謡×ワールドミュージック×DJ

hitaru プロジェクト
「くるみ割り人形」
中村祥子インタビュー

SCARTS TOPICS
SCARTS 主催公演 2025
石垣絢子個展シリーズ「言葉と音楽」Vol.VII
BOLERO
—書×ヴァイオリン×ピアノ—
イベントスケジュール
2025 6.1-7.31

Wave times+の
編集・デザイン
は、札幌市民交流プラザ
と連携して行っています。

札幌文化芸術劇場 hitaru、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書・情報館 公演情報や取り組みを発信

札幌市中央区にある「札幌市民交流プラザ」の会報誌 アーティストのインタビューや公演告知を担当

札幌市民交流プラザ 広報誌 『wave times+』 2023.6～2025.7

- 札幌市民交流プラザ
- 2023.6月号からリニューアル／季刊／A4判／22頁／発行1万部

[illegible][illegible]

札幌文化芸術交流センター SCARTS
公演レビューや人物インタビュー、
イベントルポなどを担当

札幌市中央区にある「札幌市民交流プラザ」の会報誌
さまざまな分野のアーティストや研究者を取材して記事化

『北海道キャンプ場ガイド25-26』

- 亜璃西社
- 2025.4発行／四六判／352頁／初版約1万部



『北海道キャンプ場ガイド22-23』
からお手伝い中

1992年創刊の老舗ガイドブックの編集作業
新規オープンのキャンプ場との連絡・調整、原稿を担当

『ソフトテニス・マガジン』

- ベースボール・マガジン社
- 2018～2025／B5判／114頁／定価980円～（税別）

注目校訪問②

とわの森三愛高

北海道の歴史を変えた快挙のその先へ

狙うは初出場 初優勝

北海道の歴史を変えた快挙のその先へ

チャンスは来る！
三重インハイ

人が集まるインハイに響き、さらに、高い技術力と練習の成果が、このコンプレックスに響き、力の差が現れた。三愛高は、このインハイで、初の初優勝を挙げた。この快挙は、北海道の歴史を変えた。この快挙は、北海道の歴史を変えた。この快挙は、北海道の歴史を変えた。

自ら考える力を伸ばす

庄司賢治監督

「選手たちは、自主練習が多いのが特徴。課題を見つけて克服するために地道に取り組むという前向きなサイクルができています。練習メニューをトップの選手に合わせて組んでいるのは、自主練習のネタを増やしてあげたいから。指導陣や先輩・後輩から良い部分を柔軟に吸収しつつ、自ら考える力を伸ばしてほしいですね」

ソフトテニスで人づく

榎原良信 総監督

「選手たちの本分はあくまでも学業、学校生活、そして部活動という優先順位を徹底しています。スポーツを通じて豊かな人間性身につけ、その後の人生に生かしてほしい。高校時代にそうし、教えた先生から良い部分を柔軟に吸収しつつ、自ら考える力を伸ばしてほしいですね」

YONEX CUP 2023 国際札幌大会

2月26日 ◆北海道札幌市・北海きたえーる

国内トップの選手が一堂に集結。3年ぶりの有観客での開催となった「YONEX CUP 2023 国際札幌大会」。男子は国外招待選手の林章傑／欧子鴻が、女子はペアとして最後の個人戦出場となった、高橋乃綾／半谷美咲が栄冠をつかんだ。

取材・文●能登亨樹 写真●伊東雄一

半谷美咲が優勝で札幌にお別れ

男子は台湾の林章傑／欧子鴻が快勝

内外の有力ペアと北海道・札幌の連覇を懸けた激戦が繰り広げられた。男子は、船水風人／上松俊貴（船岡クラブ）が、女子は、高橋乃綾／半谷美咲（どんぐり北広島）が、それぞれ、1位で優勝した。北海道のファンにとっては、トップ選手のハイレベルなプレーを生で観戦できる貴重な機会。迫力満点の一球一打に、会場は熱気に包まれていた。

なお、船水風人／上松俊貴（船岡クラブ）は、男子ダブルスの決勝で、高橋乃綾／半谷美咲（どんぐり北広島）と、連覇を争う中川瑞貴／石井友梨（ワタキューセイモ）を、2-0で破り、優勝した。高橋乃綾／半谷美咲は、女子ダブルスの決勝で、高橋乃綾／半谷美咲（どんぐり北広島）と、連覇を争う中川瑞貴／石井友梨（ワタキューセイモ）を、2-0で破り、優勝した。

男子優勝 林章傑／欧子鴻
（国訓中心教練・台北市立大）
林章傑は2019年世界選手権ダブルス覇者でもある

女子優勝 高橋乃綾／半谷美咲（どんぐり北広島）
攻撃型並行陣で数々のタイトルを手に入れた2人

男子2位 水木 瑞／端山雅行（早稲田大）
急進ペアも、高いレベルを見せた

全日本高校選抜出場校名鑑／2025ナショナルチーム対談・上松俊貴×榎田瑞音／高校物語2025・明德義塾

SOFT TENNIS

M A G A Z I N E

ソフトテニス・マガジン
http://www.softtennis-mag.com/

5 MAY 2025 No.607

◆ベースボール・マガジン社

第5回 平和カップひろしま国際ナショナル合宿レポート

第50回 全日本高校選抜出場校名鑑

高校物語2025 明德義塾◎高知 星野◎高知 平原英和監督の歩み ◎大分商業

インハイ中止世代の今 岩倉彩佳 ◎どんぐり北広島

Dreaming girl

ありがとう、高橋乃綾。

日本人女子初のアジア大会シングルス制覇など、濃密な競技生活にピリオド

アマチュアスポーツ各種を中心に、豊富な取材経験があります

北海道で開催される大会のレポートや有力チームの紹介など、取材・原稿を担当

『ワンダー』

<https://wander.co.jp/special/detail/45/>

●2024.9更新

不動産ポータルサイトのコラム



『スマイルゼミ』

<https://smile-zemi.jp/koukou/>

●2025.3更新

合格者インタビュー



各種ウェブサイトの
北海道現地取材のお声掛けも
増えてきました

企業系のポータルサイトにも対応できます
インタビューはもちろん、別途カメラマンの手配も可能です

『北の交差点』インタビュー

- 一般財団法人 北海道道路管理技術センター
- 2024.11月発行

特集

車いすから見る風景

Essay

車いすで、目指せ日本一周!

中環 (なかたまき)

車いすから見る風景

日常的に車いすで生活していると、道路は決して平坦ではなく、起伏や段差に満ちていることがわかります。路面環境も千差万別。車いすでの走行は、歩道と車道のつなぎ目のちょっとした溝に車輪がはまって転倒につながるという危険性と常に隣り合わせです。

一方で、車いすからの目線だからこそ、出会える風景や思いがけない発見がたくさんあります。自動車や自転車だと気づかずに通り過ぎてしまうような、美しい風景やその地域ならではの暮らしを身近に感じられるのが、車いすの旅の楽しいところ。そして何よりも、この車いすでの日本一周という挑戦を応援してくれる全国各地の人

たちとのつながりが、私にとってのかけがえのない財産になっています。

私のモットーは「やりたいことは、やらなきゃ損」。競技用ではなく、生活用の車いすの使用にこだわっているのも、障がいのある子どもたちがさまざまなチャレンジをしやすくなる環境づくりを目指しているからです。私の挑戦を見て、車いすでもスポーツが楽しめることを知ってもらえたら、何よりもうれしいですね。

不慮の事故からの復活

さて、ここでは私が車いす生活を送ることになった経緯について、少しお話ししたいと思います。

シングルマザーとして、仕事を掛け持ちしながら、子育てに奮闘していた2009年のクリスマス。私は子どもたちへのプレゼントを頼んだ自動車を運転して、家路を急いでいました。そして赤信号で停車していたところ、後方から追突されてしまったのです。

当初は動揺していたせいか、痛みを感じなかったのですが、そのまま帰宅。翌日、病院で診察を受けたのですが、その日の夜になって、首の辺りに激痛が走り、容態が急変。緊急入院することになり、そこから3日間、意識を失っていました。

診断は頸椎の損傷。5か月の入院を余儀なくされ、左

半身まひの症状が残ることになりました。治療・リハビリをすれば、以前と同じ生活に戻れるものと思込んでいた私は、その見込みがほとんどないことを知らされて、がくぜんとしました。

当時、私は37歳で、長女の姉は中学1年生、長男の弟は小学3年生。これから子どもたちとどうやって暮らしていけばいいのか——突然の不幸と将来への絶望で途方に暮れました。そこからの1年間はとにかく自宅に引きこもり、ふさぎ込むばかりの日々でした。

この暗黒時代から社会復帰するきっかけになったのは、介助犬のファーストとの出会いでした。ラブラドルのファーストと一緒に暮らすことで、少しずつ前向きな姿勢を取り戻すことができたのです。

沖縄では356km、四国は868km、九州では1,075kmを走破しました。1日の平均走行距離は約40kmで、基本はテント泊。チャレンジ中は車いすのメンテナンスも自ら行っています。

普段は家の周辺で10〜20km程度の走行練習が日課に。こうした私の活動を知った方々からは「すごい!」と仰っていただく機会が多いんですが、実は私自身はそんなに大層なことだとは思っていません。自分の意志で車いすをこいでいるだけ。ただ、さまざまな障がいを持った子や何らかの理由で登校拒否になってしまった子、その親御さんたちをはじめ、全国各地の方々からお手紙やメッセージをもらうことが増え、そんなみなさんとの交流が充実感につながっているのは確かです。

本州を車いすで走っていて県境に差し掛かると、看板を見なくても「ああ、ここから次の県に入ったな」とわかります。県によって維持や整備の具合に差があって、路面のコンディションが変わるのです。

一方で挑戦を終えて、フェリーで小樽港に着き、車で国道5号に出ると、北海道の道幅の広さに驚かされます。普段の生活ではなかなか気づきませんが、その広々とした道を見るたびに「北海道に帰ってきた!」と実感して、毎回感動するんですよ。

家族の存在がきっかけ

私が日本一周にチャレンジしようと思った動機には、亡くなった父の存在が大きく影響しています。両手に障がいを抱えていた父でしたが、登山が趣味で、ヒマラヤやモンブランを挑戦するような人でした。当時の日記を読むと、少ない予算の中で、自分で道具を工夫する様子などが克明に記されていました。そんな生前の父の姿は新たな発見でしたし、障がいも資金不足も言い訳にはならないんだ、と考えを改めることにもなりました。

それまでは「子どもが小さいから」とか、「経済的に余裕がないから」とか、「女だから」とか、そんな言い訳ばかりで、やりたいことを取り組まずに過ごしてきました。でも「これからは言い訳せずにやりたいことに挑戦していこう!」と決めたのです。

ただし、私の車いすは福祉用具という扱いで、歩道と路側帯以外は走行できないこともあり、コースを先回りして支援してくれるサポートカーの存在は欠かせません。2021年に沖縄、2022年に四国、2023年に九州一周を達成しましたが、二人の子どもたちをはじめ、SNSやテレビ番組を通じて縁がつながった人たちの手厚いサポートがあったからこそ実現できました。

中環 (なかたまき)

■ profile

1972年北海道札幌市生まれ。2021年から「TRY with ファースト」をスタートし、日本一周を達成。その後、全国各地を車で走り、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄の1都道府県をすべて周遊。現在は、全国各地で講演活動やイベントを開催中。

「TRY with ファースト」のSNSアカウントは、Facebook「TRY with ファースト」、Instagram「try_with_first」、YouTube「try_with_first」です。

今日のインタビューは、中環さんに協力いただいた、HBC北海道放送「今日4時」で放映された動画を、動画の2分30秒から3分30秒までを、ご覧いただけます。

安全で快適な道路環境の創出を目指す技術情報誌

北の交差点®

VOL.42

2024

特集 / 新しい北海道総合開発計画

Rmec

ROAD-EX

道路業界の技術情報誌
人物インタビューを担当

さまざまな業界のPR誌や専門誌なども対応できます
ご要望に合わせて、硬軟織り交ぜて仕上げます

酒場詩人・吉田類 責任編集

『旅人類 Vol.4~8』

- 共同文化社 ●プラン・プロデュース
●2018～2022.3／B5判／144頁／定価1000円（税別）



まずは乾杯！個性に満ちた常連客が集まって、類
さんを熱烈歓迎してくれた。

夜の独尊

地ビールとうまい酒、季節のうまいもんがそろう人気の居酒屋。JR富良野駅すぐそばという好立地で、夜の富良野に繰り出すなら、口開けはこの店で間違いないし。

富良野市日の出町5-5 渡辺ビル 2階
TEL 090-4046-1403

TEL.080-4046-1403
17:30~24:00 月曜休

JR「富良野」駅より徒歩2分



独専印のオル
地ビール
ブから注ぐ
の他に、ダ
ヴァイツェ
の瓶生も。



名物オーナーの宮田さんは「子ども地域食堂」なども主催する、心優しきオヤジだ。

創業45年を誇るカレと自家製ソーセージの店「鹿角独舞」や「店ごとの独舞」を展開するバビの宮田均さんは、知らない人は少い。ともいえる。富良野の街の中心部だ。そんな宮田さん、平成29年（2017）に開いた新しい城が「夜の独舞」。シルエトリの横軸に、店長の佐々木信太郎と共に、居酒屋で脱を奏る「居酒屋で脱」。

♪ 類とかが独舞オブリナ地ビール、ビールのバビナに、靴を脱いで来たら、常連になったかがバビナと集まること。さあそこがバビナも大変。カラフトススの氷菓とすずや血合の塩辛、三升酒などとうとうな酒肴が続々とテーブルに並び、バビナさんがアイスビードで空になる。約り好きの宮田さんと類とは話しているうちに成長した魚サケがいる。どうとんちになり、自慢のカレーの大盤振る舞い店内がうと薄けは、宮田さんはちと千チタを持ち出した一曲どうだ、いややちび最後は乾杯だ、とまあ、いっしょをかがちやが、島唄来たかた!!



手前の「前菜オードブル」800円や「肉の燗盛り合わせ」1,200円など、極上のつまみがずらり。右奥「ピルスナー」は600円。

うまい酒肴がずらり
唯我独尊、夜の城。

創業40年を超えるカレーと自家製ソーセージの店、唯我独尊*やパン店「となりの独尊」を展開するオーナーの宮田明とは、「知らない人はモグリ」ともいわれる。富良野の街の世話役だ。そんな宮田さんが平成20年（2011）に開いた新しい城が「夜の独尊」。シルキェトリを軸に、店長の佐々木伯夫さんと共に、固置立ちて腕を振るう「居酒屋」である。

● 人 類

動き出す。蒸溜槽の口の前には、
櫻枝「非」で蒸溜技師の風間大輔さ
んな合流。定番の「9488#0001
Crater Greenや公園のモジを
使った秋限定の「94488#08891
Benzakura」を一試飲だ。」
「シ、特利のきょうさよりも、爽やか
さが際立っていて、ブランデーやワイ
ンに近いような豊かな芳香を際立た
せて。所出の地下水のおいしさが
生きているんだね」

蒸溜所では、赤銅色の輝きが美し
い蒸溜器と二対面。容量は400リ
ターの蒸溜器が2台あり、蒸留品は



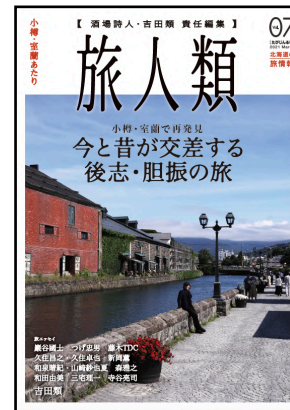
ジョージ・オーウェルのディストピアSF小説『1984』からインスパイアされたという、ユニークなネーミングの「9148」。定番のレシピ番号#0101は、1本4,950円。



世界標準を志向する
札幌発のクラフトジン。

イタリアのバリソン社の熱湯器はオーダーメイド

席人型 0



札幌・石狩あたり

【 酒場詩人・吉田類 責任編集 】

旅人類

都市と郊外。行ったり来たり
北都・札幌と共に
一世紀半、石狩

藤エッセイ

巖谷國士 つげ忠男 藤木TDC
久住昌之・久住卓也 新岡薫
和泉晴紀・山崎紗也夏 森雅之
ニシカワ ヨシエ 三宅理一
松田法子 寺谷亮司
吉田類

Vol.4から5年連続で参画
毎年2週間ほど類さんと同行取材
勉強させていただきました

毎年1回発行、北海道を丹念に巡って作った旅の雑誌
知床や十勝から富良野・美瑛、空知エリア、小樽・ニセコ、
札幌と札幌近郊まで、酒造所やグルメなどの取材・原稿を担当

JTBのMOOK 『札幌 小樽 完全版』

- JTBパブリッシング
- 2020.3.1発行／A4判／176頁／定価1200円（税別）



案出し・取材・撮影手配、
オリジナル企画の立案・掲載も

MOOKの札幌現地統括として、制作進行の窓口。
出版社・デザイン会社との連絡・調整・スケジュール管理から
企画立案・ラフ作成・取材・発注・校了までを一式で担当

JTBのMOOK 『まだ見たことのない北海道の絶景』

●JTBパブリッシング ●亜璃西社

●2018.4.1発行／A4判／112頁／定価1200円（税別）

Bane horse racing morning training

絶景
北海道

朝靄煙る朝の調教馬場で
大迫力のばん馬を見学



◆ばん馬の息づかい、匂い、躍動感——早朝の調教馬場で、人と馬との歩みに思いを馳せる

☎0155-34-0825（ばんえい十勝）

①帯広市西13条南9丁目 ②JR帯広駅から車で約

7分 ③朝調教見学ツアー参加料：大人2000円

（プレミアムラウンジ利用券・おみやげ付き）、小中

学生500円、小学生未満無料、定員各回15名、前日の18時までに

電話で要予約（水・木曜除く） ④6時または6時30分から約1時間

⑤重賞競走開催日のみ実施 ※詳しくは公式ホームページを確認

⑥750台



Google Map

※いつ見られる？

1月～3月下旬

徐々に明けていく朝日と競馬に絡むばん馬のコントラストをカメラに収めるなら最もベスト。1～3月下旬は毎週日曜日にツアーを開催している。定員が埋まってしまう場合もあるので、早めの予約と万全の防寒対策を。

※この時期もオススメ

ばんえい競馬は1年を通じて、ほぼ毎週土・日・月にレースを開催中。「朝調教見学ツアー」は4月下旬から12月末までは重賞競走の開催日のみ実施（要確認）。冬以外の季節でも、ばん馬の魅力を身近に体験できる。夏はタイマーで行われる本番のレースもぜひ楽しんで。

ばんえい競馬の朝調教
ばんえい競馬の朝調教は、普通は立ち入り不可の調教馬場でトレーニングの様子を見ることが出来る人数限定のツアー。直線200mのコースで鉄ソリを引き、スピードや持久力を競う世界で唯一のレース。ばんえい競馬、朝調教では目の前ではばん馬の迫力を体験できる。

道・東



※まだ見たことのない※

スマホで使える
電子書籍付き

北海道の絶景

SUPERB VIEW IN HOKKAIDO

この感動の風景、
知っていますか？

JTBのMOOK

気温マイナス17℃！ 2018.1.13朝
6時の帯広競馬場で現地取材

企画立案から制作進行、ライティング&デザイン発注、
取材調整や素材手配、取材・原稿、編集・校正まで、
一冊まるごと制作全般を担当

『一個人』 2019.7月号

- KKベストセラーズ
- 2019.6.8発行／A4判変型／114頁／特別定価840円（税込）

むかわ町で
現地取材！
北大の小林
教授から恐
竜新常識や
むかわ竜の
発掘秘話を
伺いました



「むかわ竜」の全身復元骨格が完成！

「むかわ竜」の全身復元骨格は、むかわ町特別博物館で展示されている。この骨格は、むかわ町で発見された「むかわ竜」の化石から復元されたもので、全身の骨格がほぼ完全な形で再現されている。この骨格は、むかわ町で発見された「むかわ竜」の化石から復元されたもので、全身の骨格がほぼ完全な形で再現されている。

立ち上がった「むかわ竜」が、今年の夏、東京に上陸する。

新千歳空港から車で約1時間30分、道央自動車道から約10分、むかわ町に到着する。むかわ町は、恐竜の化石の産出地として、世界中から注目を集めている。むかわ町には、恐竜の化石の産出地として、世界中から注目を集めている。

「むかわ竜」の全身復元骨格が完成！

「むかわ竜」の全身復元骨格は、むかわ町で発見された「むかわ竜」の化石から復元されたもので、全身の骨格がほぼ完全な形で再現されている。この骨格は、むかわ町で発見された「むかわ竜」の化石から復元されたもので、全身の骨格がほぼ完全な形で再現されている。



ディノケイルス

1955年にカリフォルニア州の化石が発見され、「恐ろしい手」を意味するこの名がつけられた。「謎の恐竜」と呼ばれていたが、近年他の部位の化石が次々と発見され、その奇妙な姿が明らかになった。



モンゴル発の奇妙な恐竜

モンゴルで発見された恐竜の化石は、その奇妙な姿が明らかになった。この恐竜は、モンゴルで発見された恐竜の化石から復元されたもので、全身の骨格がほぼ完全な形で再現されている。



二人の恐竜博士が語る

恐竜世界の最新常識

小林快次さん

1974年、福岡県生まれ。1997年、東北大学理学部卒業。2001年、東北大学理学部博士。現在は、東北大学理学部教授。恐竜の化石の産出地として、世界中から注目を集めている。

「むかわ竜」発掘・研究の歴史

発見

2003年、むかわ町在住の堀田良さんが、むかわ町特別博物館の収蔵庫に収められていた、2011年に東京大学大学院の佐々木孝一さんが、恐竜の化石の産出地として、世界中から注目を集めている。

特集：令和の時代に知りたい！ 万葉集と古事記入門

一個人

万葉秀歌の風景
万葉集の表現と歌人たち
明日香・山の辺の道・大宰府を歩く

古事記入門

早わかり！日本人のこころの古典

古事記には何が書かれているのか？
国史絵画でたどる神話と建国物語
日本の神様の美とたたかち



「連載 日本を知る旅」4P分
『日本の恐竜時代』
むかわ町での取材・原稿・校正を担当